

8月のマーケット概要

8月の米国の株式マーケットは月初に発表された雇用統計にて、過去5月・6月の雇用者数の伸びは合計26万人の大幅下方修正が入ったことから、景気後退を織り込み、その後1ヶ月間に亘り雇用市場の軟化は懸念材料であり続けました。

一方で、景気減速による利下げ期待が高まったことで株式市場は発表当日は大きく下落したものの、その後は底堅く推移しました。インフレ指標については、米消費者物価（CPI）ではコアの若干上昇傾向が見られ、更に卸売物価指数（PPI）では、総合もコアも前月比と予想比で大幅に上昇しました。通常PPIはCPIの先行指数となることが多いです。昨今の弱い雇用と今後のインフレ警戒感から注目されたジャクソンホールでのパウエル議長の講演では、インフレよりも雇用による景気悪化リスクに重点を移し、9月のFOMCにて利下げの可能性を示唆する内容でした。マーケットはこれを好感し、結局振り返ってみると1ヶ月を通じて株式市場は上昇し、史上最高値近辺で終わりました。

現状マーケットは9月の利下げを9割の確率で織り込んでおり、通常、利下げは株式バリュエーション上プラスに働くものの、今後景気が本格的な悪化を見せる場合は、バリュエーション上の上昇効果よりも景気後退によるネガティブ効果が上回ることとなります。今後は、雇用市場の動向、即ち9月の雇用統計や毎週発表の失業保険申請件数などに、マーケットは敏感に反応してゆくことになると思います。

最近の米雇用情勢悪化の特徴としては、レイオフはそれほど悪化していないものの、求人数も伸びがなく、背景にはAIの普及もあると考えます。今後その構造的な変化には注視していきたいと思っています。

今月は日本株の上昇が目立ち、昨年7月以来、史上最高値を更新しました。日本株はバリュエーション上割安ではなくなっていますが、関税交渉の収まり、政治的動きの期待、欧米株式に比べて出遅れ感があること、実質金利のマイナスなどが根拠となり、海外の資金が日本へ向かったと考えます。

弊社のファンドは今月、日米株式市場が史上最高値近辺で推移する中、株式の割合を徐々に減らし、キャッシュ比率を上げる一方でゴールド関連を増加しました。コードモファンドは、最大のポジションがゴールドになり、浪花おふくろファンドは金鉱株ファンドの割合を増加しました。

今後も引き続き、特に雇用及びインフレの経済指標を注視しながら、相場に対しては慎重なスタンスで臨む予定です。



左記のQRコードよりXアカウントにアクセスいただけます。
パリミキアセットマネジメント【公式】
@PM_Asset

パリミキアセットマネジメント
ファンドマネージャー
宇野 隆一郎



【8月の運用コメント】

基準価額は月間で+2.86%となり、年初来で+10.94%となりました。

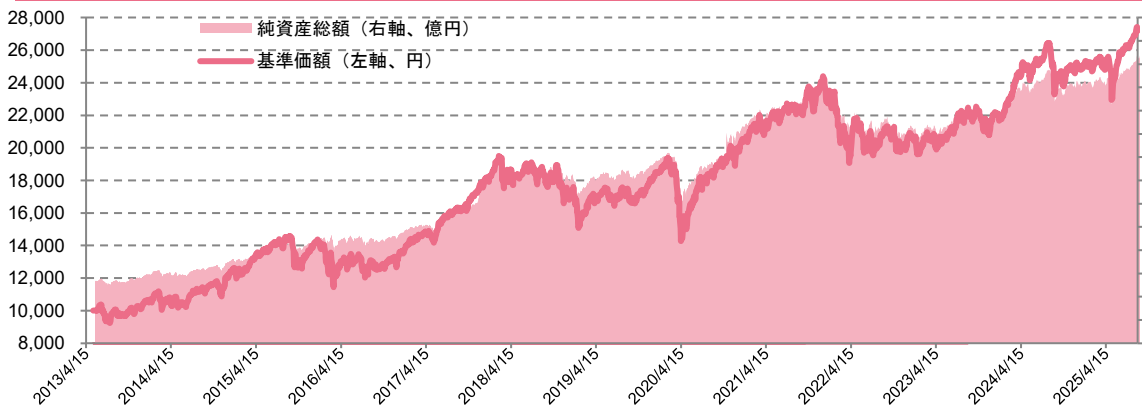
組入れファンドの騰落率については、上昇の寄与度が大きかったモーラントライトが騰落率+7.05%、ニッポングローブが+9.10%、金鉱株式のKonwave Goldが+15.64%などでした。一方、下落に寄与したのはコムジェストEUが騰落率▲3.11%などでした。

8月の売買では、Konwave Gold を追加しました。一方、世界中小型ファンド、欧州ETF、東欧ファンド、日本株式ファンドなどを一部売却しました。キャッシュ比率は前月の10.89%から15.51%へ増加しています。

為替が、対ドルで約2円(▲1.65%)円高へ、対ユーロでは約1円(+0.72%)円安へ推移したことにより、ポートフォリオ全体で0.22%引き下げたこととなります。

現状の外貨資産リスク(34%)に対する為替ヘッジ率は、0%で、全体のポートフォリオの内、外貨リスクは34%です。

基準価額と純資産総額の推移



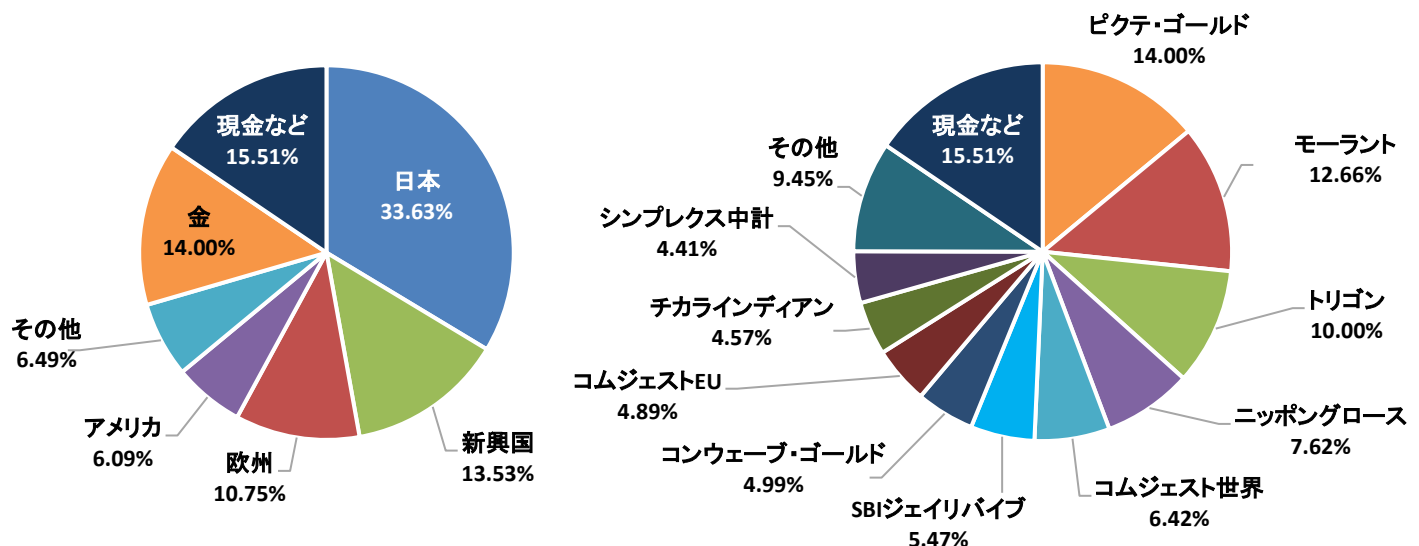
組み入れファンドTOP5 基準価額の前月比

ビクテ・ゴールド	2.74%
モーラント	7.05%
トリゴン	3.00%
ニッポングローブ	9.10%
コムジェスト世界	-0.75%

コードモファンド概況

基準価額	27,977円	設定日	2013年4月15日
純資産総額	12,653百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	8.57%	決算日	毎年2月25日 (休業日の場合は翌営業日)

資産構成比率(組入ファンド全15本)(左:国別、右:ファンド別)



期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
2.86%	7.29%	11.60%	14.09%	34.50%	48.17%	106.70%	179.77%
					(複利年率) (8.19%)	(複利年率) (7.53%)	(複利年率) (8.66%)

ファンドにかかわる費用

運用管理費用
(信託報酬)

年率1.10%(税抜き1.0%)

組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.75±0.5%(税込/概算)

浪花おふくろファンド

じっくりどっしり長期運用

【8月の運用コメント】

基準価額は月間で+1.27%上昇し年初来で+4.27%となりました。

組入れファンドの騰落率については、上昇寄与が高かったのはシプレックス中計が騰落率で+2.78%、SBIジェイリパイブが同3.57%、金鉱株式のKonwave Goldが同+15.64%などでした。下落に寄与した銘柄はコムジェスト世界株式が騰落率で▲0.75%、コムジェスト欧州が同▲3.11%などでした。

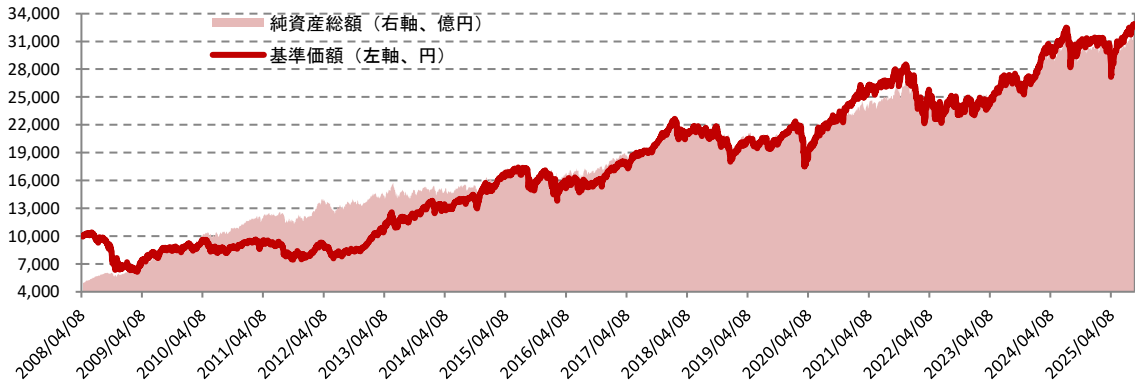
8月の売買は、金鉱株式ファンドを追加しました。一方、売却では、世界株式ファンド、世界中小型ファンド、日本株式ファンドなどを一部売却しました。キャッシュ比率は前月11.45%から13.90%へ増加しております。

為替が、対ドルで約2円円高へ、対ユーロで約1円円安へ推移したことにより、ポートフォリオを全体で0.37%引き下げたこととなります。

現状の外貨資産リスク（51%）に対する為替ヘッジ率は、0%で、全体のポートフォリオの内、外貨リスクは51%です。

基準価額と純資産総額の推移

組み入れファンドTOP5 基準価額の新月比

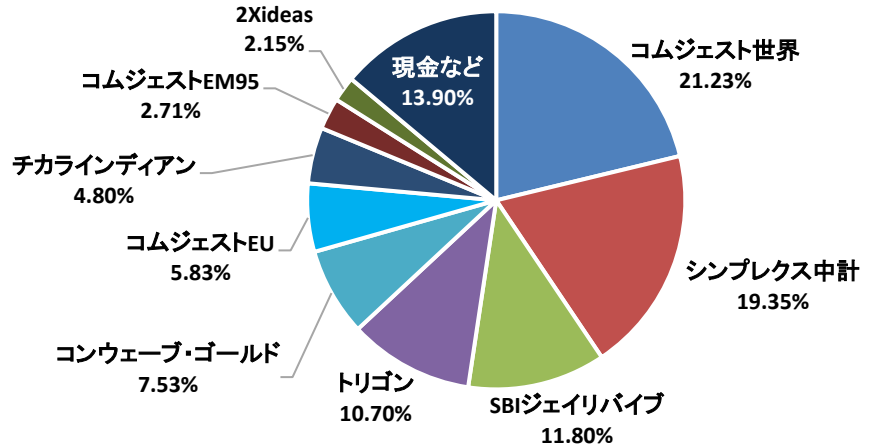
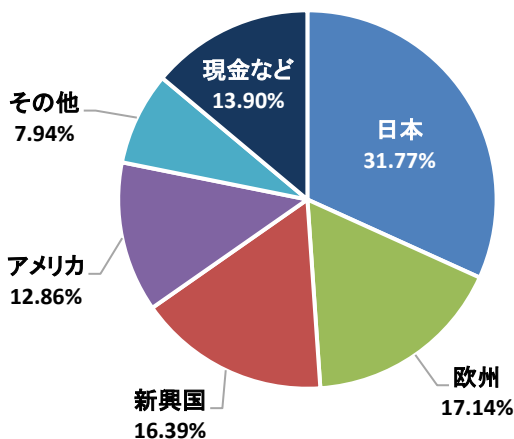


コムジェスト世界	-0.75%
シプレックス中計	2.78%
SBI ジェイリパイブ	3.57%
トリゴン	3.00%
コンウェーブ・ ゴールド	15.64%

浪花おふくろファンド概況

基準価額	32,746円	設定日	2008年4月8日
純資産総額	2,033百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	11.36%	決算日	毎年3月3日（休業日の場合は翌営業日）

資産構成比率（組入ファンド全9本）（左：国別、右：ファンド別）



期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
					44.69%	102.45%	227.46%
1.27%	5.75%	6.53%	7.92%	35.02%	(複利年率) (7.67%)	(複利年率) (7.31%)	(複利年率) (7.05%)

ファンドにかかわる費用

運用管理費用
(信託報酬)

年率0.99%(税抜き0.9%)

組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.65±0.5%(税込/概算)

コドモファンド・浪花おふくろファンドにかかわる共通のその他費用・手数料

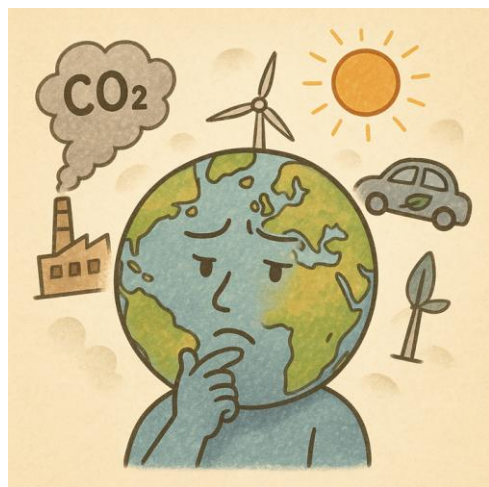
信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

設定・運用・販売は株式会社パリティアセットマネジメント／金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2727号

※比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。



地球温暖化の真実



「地球がどんどん暑くなる！」

——まさにこの夏はそれを確信させるような暑さでしたね。しかし、物事は一面から見て断定してしまうと、その奥にある本質を見失いかねません。科学とは、常に多面的でなければならないのですが、何が「真実」であるかは、視点、特に時間軸の置き方次第で大きく変わってきてしまいます。

たしかに、近年の観測データを見る限り、地球の平均気温が緩やかに上昇していることは否定できない事実です。ですが、それをもって「地球が異常になっている」と即断するのは早計かもしれません。地球は46億年という悠久の時の中で、寒冷と温暖の周期を繰り返してきました。現代の温暖化もまた、その大きな変動の一場面にすぎないのかもしれないのです。

CO₂は悪者か？

この温暖化の「原因」とされているのがCO₂です。現在、世界中のメディアや政策がこの物質を「地球の敵」のように扱っていますね。でも、本当にそうなのでしょうか。CO₂こそは、植物の光合成に不可欠なものであり、また生物の組成に不可欠な炭素を供給してくれており、それなしには地球上の生物は存在できません。

太古の地球は、大気の約90%がCO₂でした。そこから徐々にCO₂が減少し、酸素が増え、生物の多様な進化が可能になりました。しかし、現在その濃度をご存知ですか？なんと0.004%！地球の歴史で見ると、ほぼゼロに近く、生物にとって危険水域でもあるのです。問題なのは、CO₂の「存在」ではなく、「増加のスピード」かもしれません。

産業革命以降、人類が化石燃料を燃やし続けた結果、大気中のCO₂濃度は急激に増加しました。それが気温の上昇と関係しているとされていますが、その因果関係にはまだ未解明の部分も多いのです。太陽活動や海流の変化など、自然のメカニズムも温暖化に大きな影響を与えている可能性は十分にあるのです。

グリーンビジネスの本質

ここで、我々はさらに一歩踏み込んで考えねばなりません。それは、「温暖化の対策」とされる技術や政策が、本当に科学的根拠に基づいているのかということです。たとえば電気自動車（EV）は、走行時にCO₂を出しません。バッテリーの製造過程では多くのエネルギーを消費し、場合によっては化石燃料よりも環境負荷が高くなることすらあります。また、太陽光パネルや風力発電機も、設置・廃棄に伴う環境影響を無視することはできません。

それにもかかわらず、なぜ今、これほどまでにEVや再生エネルギーが「正義」とされるのでしょうか。その背景には、環境問題を利用した新たな経済戦略、すなわち「グリーンビジネス」の台頭があります。先月の月次で紹介したように、ヨーロッパの自動車産業は、トヨタのハイブリッド技術に遅れをとり、その対策として、クリーンディーゼルを打ち出し、やがて排ガス不正が明るみになると、今度はEVへの急転換を図りました。

このような流れを見ると、「環境対策」は単なる技術革新ではなく、経済競争の手段として利用されている側面が浮かび上がってきます。我々は単にマスコミの情報に翻弄されるのではなく、「温暖化は現実か」「原因はCO₂なのか」「解決策はEVや再生エネルギーなのか」という「現象」「原因」「解決方法」の3つの問いを、個別に、そして冷静に検証しなければなりません。すべてを一本の「正義のストーリー」にまとめてしまえば、そこに生じる矛盾や歪みを見過ごすことになりかねないのです。

目先の儲けだけで投資判断するのではなく、この地球に生きる者として、真実を見つめ、物事を多面的に考えることも、これからの投資家に求められる大事な姿勢だと思えます。



(株)パリミキホールディングス

代表取締役会長

多根 幹雄



チームあいのり



私の「真夏の夜の夢」～少子化対策と家庭教育～

少し前に「2024 年の出生数は 70 万人を割って過去最低の 68.6 万人になった」という記事を読みました。2021 年までは 80 万人を越えていたので、急激な減少と感じます。気になって 2024 年の死亡者数を調べてみると、160.5 万人。同様に 2021 年と比べると 2021 年は 144 万人だったので、こちらは急増に見えます。2024 年の日本の人口の自然減は 91.9 万人となり、このペースだと 2025 年の人口の自然減は 100 万人を超える可能性すらあるのではないのでしょうか。少子化による国力衰退の危機が叫ばれて久しいですが、いまだに少子化対策の成果は上がっていないようです。

少子化対策に私見を述べれば、これまで国を挙げて(?)取り組んできた、出生率を上げる努力(正確には維持する努力)は引き続き必要だと思いますが、先進国で少子化が進むのは前提と捉えるべきだと考えています。その上で国力を維持するために、数ではなく質、つまり、一人一人の子供の持つ可能性をより高めていくための「教育」が、国力維持の鍵となるように思うのです。

日本において子供の教育となると学校教育に目が向けられがちで、子供の人格や非認知能力の形成に最も影響が大きいであろう、家庭教育については各親任せで疎かにされがちです。巷に情報として出てくる家庭教育も、「受験に受かるため」、「天才スポーツ選手の育て方」のような情報か、困った時の how to ものしか目にしません。果たしてこれが未来の地球を担う日本の子供に必要な家庭教育なのかと問われると甚だ疑問なのです。

子供の持つ可能性を高める家庭教育がどのようなものかは、それぞれの家庭での考え方があると思います。大事なことは、家庭教育が子供の将来に大きく影響を与える事を親や祖父母、叔父叔母など子供の身近にいる人たちが理解する事、その上で、家庭教育方針のようなものを決め、それを意識して子供と接して、家庭教育を実施する、という事だと思うのです。例えば子供の家庭教育方針を「自ら考え、自らの手で自身の幸せを実現していく“自立・自律”した子供を育てる」とするならば、そのための家庭教育はどうあるべきか?を、子供の教育に携わる人たち(親や祖父母、叔父叔母など)が話し合い、試行錯誤しながら家庭教育を実施していくことが、子供の可能性を高めていく事につながると思うのです。

学校に教育理念があるように、家庭にも教育理念を持つ世の中にすることが、少子化による国力衰退の課題解決につながると、つらつらと考える、暑くて眠れない夜でした。

(尚、自分も子を持つ親として、自分の事は棚に上げている事は「真夏の夜の夢」としてご容赦ください)

パリミキフェア2025 in 水戸

メガネのパリミキが主催する「パリミキフェア2025 in 水戸」にパリミキアセットも参加する運びとなりました。現地のブースにて弊社の投資信託の説明など、お客様とお話できる機会になればと思っております。

会場には、弊社のブース以外にパリミキグループ会社の商品、逸品のメガネフレーム・高機能累進レンズをはじめ新作のジュエリーや限定アイテムなど多数展示しております。

日時

10月9日（木曜日）10：00～20：00

10月10日（金曜日）10：00～19：00

会場

会場：水戸プラザホテル（2階 プラザボールルーム）

住所：茨城県水戸市千波町2078-1

（水戸駅南口よりタクシー15分）

（水戸駅北口バスターミナル6番乗り場、関東鉄道バス約20分）

ご興味がある方には招待状をお送りいたしますので、お気軽にお問い合わせください。

お客様サポートチーム
（受付時間：平日9時～17時）

お客様専用通話料無料ダイヤル
0800-5000-968

E-mail: support@pmam.co.jp

担当者：渡邊・馬

パリミキアセット運用報告会 2025秋

〈大阪〉

10月18日(土) 13:00～15:00

会場

参加費用等について

定員：25名 ※大阪は対面のみ開催

参加費：無料 ※交流会にご参加の場合は2,000円

パリミキ アメリカ村店2F サロン

大阪府大阪市中央区西心斎橋2丁目10番30号

蔵人西心斎橋ビル2階

（大阪メトロ「心斎橋駅」8番出口 徒歩4分）

A13番出口 徒歩4分）

〈東京〉

10月24日(金) 18:30～20:30

会場

参加費用等について

定員：対面【25名】 ネット中継【30名】

参加費：無料 ※交流会にご参加の場合は2,000円

パリミキアセットマネジメント 会議室

東京都中央区銀座二丁目8番4号 泰明ビル2F

（ビル1階はカフェ・ペローチェです）

（東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」11番出口 徒歩1分）

（東京メトロ銀座線、丸ノ内線、日比谷線「銀座駅」

A13番出口 徒歩4分）

お申込みにつきましては、近日にHPでご案内いたします

「経済評論家 岩本沙弓様とのコラボセミナー」

〈東京〉

11月11日(火) 18:30～20:30

会場

参加費用等について

定員：対面【25名】 ネット中継【30名】

参加費：無料 ※交流会にご参加の場合は2,000円

Book Lounge Kable

東京都中央区日本橋兜町7-1

「KABUTO ONE」3階

東京メトロ東西線・日比谷線

茅場町駅直結

〈大阪〉

11月18日(火) 18:30～20:30

会場

参加費用等について

定員：25名 ※大阪は対面のみ開催

参加費：無料 ※交流会にご参加の場合は2,000円

ハートンホール日本生命御堂筋ビル12F

大阪府中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12F

[地下鉄御堂筋線心斎橋駅3番出口より] 徒歩約2分

お申込みにつきましては、近日にHPでご案内いたします

コドモファンド 証券投資信託約款の変更（重大な約款変更） 書面決議の結果について

コドモファンドの証券投資信託約款の変更（重大な約款変更）に関する書面による決議におきまして、2025年8月29日に、受益者の3分の2以上の賛成を得られましたので、可決されました。

受益者の皆さまには、ご理解・ご賛同を賜り感謝申し上げます。

この度の約款変更に伴い、下記イメージ図のように、2025年9月1日以降は、コドモファンドは、マザーファンドを通じて組み入れファンドへの投資を行ってまいります。

コドモファンドの運用方針および商品性につきましては、従来通りで変更はなく、コドモファンドと同様のベビーファンドを増やすことによって、運用資産の拡大を実現し、より効率的な運用を目指してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

（ファミリーファンド方式による投資のイメージ図）



ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドにかかわる費用

当社が扱う投資信託に、購入・換金手数料および信託財産留保金はありません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は株式会社パリミキアセットマネジメントが運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当社でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料中に示された数値は、作成基準日現在において入手可能なデータを参照し、弊社にて計算しております。

毎月つみたてスケジュール

次回引落日は、**10月6日（月）**です。

10月分金額変更・中止・再開締切日・・・ **9月22日（月）**

11月分新規・口座変更締切日・・・ **10月1日（水）**

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話・マイページ上（再開を除く）でも承っております。

再開につきましては、書類でのお手続きとなりますので、お電話・マイページ上・ホームページ上にて用紙をご請求ください。



株式会社パリミキアセットマネジメント
 お客様サポートチーム
 （受付時間：平日9時～17時）
 お客様専用通話料無料ダイヤル:0800-5000-968
 E-mail: support@pmam.co.jp

PARIS MIKI ASSET MANAGEMENT